

# 第27回男子ハンドボール世界選手権2021エジプト

## 試合結果報告

試合日 2021年1月19日

予選ラウンド

J P N		A N G
16	前半	12
14	後半	17
30	合計	29

戦況

別紙

No.	ポジション	氏 名	得点
10	LW	杉 岡 尚 樹	
12	GK	岩 下 祐 太	
13	PV	笠 原 謙 哉	1
14	CB	北 詰 明 未	
15	LB	部井久アダム勇樹	
18	LB	成 田 幸 平	
19	RB	徳 田 新 之 介	1
20	RB	渡 部 仁	7
21	LW	土 井レミイ杏利	4
22	GK	坂 井 幹	
25	RW	元 木 博 紀	5
27	PV	玉 川 裕 康	1
31	LB	吉 野 樹	4
33	CB	東 江 雄 斗	4
36	RW	出 村 直 嗣	
38	CB	水 町 孝 太 郎	1
39	GK	中 村 匠	
40	PV	高 野 颯 太	
41	RB	徳 田 廉 之 介	1
43	PV	吉 田 守 一	1
合 計			<b>30</b>

## 戦況

世界選手権3戦目(予選リーグ最終戦)の相手はアフリカ代表のアンゴラ。高い身体能力を有し、近年急速に力をつけてきているアフリカの新興勢力。勝利か引分で、日本のメインラウンド進出が決まる大事な一戦。2年前の世界選手権2019では29-32で敗れており、雪辱の一戦でもある。

日本の守備陣は、GKに岩下、トップに東江、笠原をセンター、2枚目に渡部と吉野、サイドに元木と土井を配置した「5-1DF」でゲームスタート。攻撃は、プレーメーカーに東江、渡部と吉野がバック、元木と土井がウイング、ピヴォットに笠原の布陣。この日のベンチアウトは杉岡、坂井、出村、部井久で、GK中村が新たにベンチ入りした。

立ち上がり、日本の「5-1DF」の隙を突かれて、アンゴラのステップで先制点を許す。アンゴラも戦前の予想通り「5-1DF」の布陣。日本は事前の分析から共通理解を図ったアンゴラDFの弱点を付くコンビネーションを駆使し、元木のサイドで得点。岩下のセーブから渡部のミドル、東江のインターセプトからそのまま速攻に持ち込んで獲得し7mスローを徳田(廉)が、一度はGKに阻止されるもののリバウンドを落ち着いて処理して得点。その後も、吉野のエンピティゴールなどで加点するが、アンゴラも強烈なミドルやポストなどで加点し、両者一步も譲らない展開が続く。前半13分、吉田がポストを決める際に相手DFの退場も誘い、日本の数的優位の時間となる。この間に渡部のカットインなどで得点し、アンゴラを引き離しにかかる。20分にはコンビネーションから、渡部がミドルを決めて12-11。日本はトップDFに高野、センターDFに玉川を入れて、DFに変化をつけると、それが奏功、GKとの連携も向上して、GK岩下に好セーブが出始める。攻撃では、吉野のミドル、水町-吉田のホットラインで獲得した7mスローを東江が決める。26分、14-12の場面でアンゴラに7mスローを与えてしまうが、この日初めてベンチ入りしたGK中村がスーパーセーブを見せてピンチを救う。直後の攻撃では徳田(新)が獲得した7mスローを東江が決め、さらに土井がエンピティゴールを決めて4連取。16-12と4点のリードを奪って前半を終了する。

ハーフタイムでは、アンゴラの「5-1DF」に対する日本の攻撃のポイントについて、特に効果的なコンビネーションや動き方、ボールの受け方などを改めてチーム内で共有して後半に臨む。

後半立ち上がり、コンビネーションから渡部のカットインが決まる。直後に退場と7mスローのチャンスアンゴラに与えてしまうも、GK中村の迫力に押されたアンゴラがシュートミス。水町の体を張ったシュートが決まって2連取、幸先の良いスタートを切った。その後は一進一退の攻防が続く、後半12分には、GK中村のセーブから土井のサイドで22-17の5点リードとする。アンゴラも高い身体能力を武器に巻き返しを狙ってくるが、後半17分過ぎには、渡部から土井へのスカイプレー、その直後にはGK中村の好セーブから玉川が速攻で決めて、25-20と再び5点差。このまま、順調に得点を重ねていきたい日本であったが、アンゴラにポスト、ミドル、速攻で3連取されてしまい、タイムアウトを請求、アンゴラに傾きかけた流れを呼び戻しにかかる。吉野がミドルを決めて、流れを断ち切ったかに見えたが、後半残り5分で相手のポストなどで27-28と逆転されてしまう。過去にはそのまま引き離されるケースが多かったが、経験値も上がり精神的にも強固になった日本は、7人攻撃を仕掛けて勝負に出る。岩下のファインセーブから元木、土井のサイドで連取、29-28と再度逆転に成功する。残り90秒で申請したタイムアウトでは、引分でもメインラウンドに進出することの共通理解を再度図ると、東江の個人技で加点、アンゴラの猛攻を1失点で凌ぎ、30-29でタイムアップ。勝利でメインラウンド進出を決めた。

この試合のPlayer of the Matchにはチーム最多の7点を挙げた渡部が選ばれた。

日本の予選突破は1997年世界選手権(熊本大会)以来、実に12大会(24年ぶり)2度目。予選ラウンドでの獲得ポイント「1」を持って、メインラウンドに進出するのは史上初。メインラウンドでは同グループのクロアチア、カタールと共に、Dグループを勝ち上がったデンマーク、アルゼンチン、バーレーンと対戦する。アンゴラには2年越しの勝利となり、雪辱を果たした結果となったが、東京オリンピック出場権を既に獲得している更なる強豪国(デンマーク、アルゼンチン、バーレーン)が待ち受けているメインラウンドに向けて、最高のパフォーマンスが発揮できるように準備をしていきたい。